

公演レビュー: アジア 7 都市共同創作 “Unbearable Dreams7~Nowhere”

アジア・ミーツ・アジア<アジア・ツアー-2013> 東京—バンガロール—ジョグジャカルタ
インドネシア・ジョグジャカルタ公演 Tamabudaya (City Hall) 2013 年 9 月 21 日

●RADAR JOGIA 新聞 2013 年 9 月 23 日朝刊



人生経験を表現：
日本・香港・中国・イラン・
韓国・台湾・インドからのダンサー達。

9月21日土曜日夜
ジョグジャ。
TBYにて。

石が、アジアの芸術家達のコラボレーションの対象と化した。

“Asia Meets Asia” と名付けられた、アジアの数カ国のダンサーによるコラボレーション作品が、9月21夜、タマン・ブダヤ・ヨグヤカルタ (TBY) に登場した。

この公演は、ジョグジャ・インターナショナル・ストリート・パフォーマンスでの演目のひとつ。彼らは、日本・香港・中国・イラン・韓国・台湾・インドから参加のダンサーである。

彼らはこの踊りを、“Nowhere” というタイトルをつけて上演した。ダンサー達が集めてきた川の石が、この踊りの中では行為の対象となっていた。これらの石がダンサー達の感情としてプレゼンテーションされ、それは喜び・悲しみ・怒り・愛をはじめとした様々な感情を浮き出している。

その中の一人、イランのダンサーである Ali Asgari はこう語った。

これらの石は、芸術家達の人生経験を描いている。この石は、直接的、あるいは間接的に、ひとつの物語を作りあげるほどに、ダンサー達と分かち合っている。

Ali はこうも語った。

石は生活の中で重要な役割を持っている。1980年半ばにイランがイラクと戦争していた時、Ali はイラン軍隊の軍人であった。その戦争の時に、Ali の人生がひとつの大きな岩によって救われた。

“その時、私の前で迫撃砲が爆発した。しかし、大きな岩の塊が、私の人生を守ってくれた・・・私は神に大変感謝した。大きな岩の塊を通して私の人生を守ってくれたのだから。” と Ali は言った。

この公演で、踊りの意図する事が何なのか捉えるのに、観客は大変苦勞させられる。比喻で埋め尽くされたこの踊りは、最初、理解するのが大変困難だ。ダンサー達が台詞を言い始めても、言葉の違いが障害となって、変わらずに難しい。

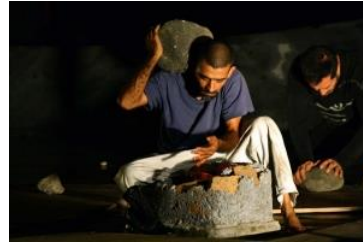
“最初は、とっても困惑した。だって、ダンサー達は石の塊を持って、ただ動き続けているだけなんだもの。でも、次第によくよく見てみると、石を通して彼らの生活を伝えていることがはっきりしてきた。”

観客の1人である、Tunjung Sari (テュンジュン・サリ) 26歳はそう言った。

(dwi/kus/ga) 筆者の名前

Performance Art Batu yang Diangkat, Dipeluk, Diperebutkan Membuka JISP 2013

di baca : 233 kali | Date 22 September



ジョグジャ国際ストリートパフォーマンス(JISP)2013は、4年目の開催となった。今年はダンスパフォーマンスに焦点を定め TBY (タマンブダヤホール)の舞台と中庭で上演された。

JISPの初日(9月21日(土))を飾った上演の内のひとつが、日本、中国、韓国、台湾、香港、インド、イランのアジア7カ国の共同創作プロジェクトであるアジアミーツアジアだった。

アジアミーツアジアは、見たところ特定の場所の不在を象徴的に表す「Nowhere」というタイトルのパフォーマンスアートを持ってきた。ほぼ空っぽの裸舞台には、背景幕としての布の背後に3枚の板が取り付けられているだけだ。

「Nowhere」では、それぞれのダンサーの記憶の場所も見せる。彼らは、石を持ち上げ、抱きしめ、争い、ころがし、打ちつけ、落とし、あるいは人生で大切ななにかを石で築いたりした。石を愛、家族、人生への希望の形として見せるのだ。

「イラクーイラン戦争で兵士だったとき、私には大きな石にかかわる思い出があります。爆撃が続くなかで3日間、私は大きな石の背後に隠れていました。」とイラン出身のアレック・アスガリは語った。

また、13人のダンサーで構成されるアジアミーツアジアは、観客をインターアクションへと招く。上演の半ば、13人が横一列に並んで立つシーンがある。彼らは一人ひとり前に進み出て、様々な言語で自己紹介する。ひとりが自己紹介するたびに、観客は歓声をあげ、賞賛する。何度も交代で自己紹介する内に、観客は公演はもう終わったと思っていた。

他のシーンでは、コミュニケーションが成立しないことが描かれる。ふたりが言い争っているのだが、彼らはそれぞれの母語を使っている。さらにもうひとりが介入しようとするのだが、やはり自分の母語で叫んでいる。次第に騒ぎが大きくなったとき、突然ひとりが「ナシゴレン! ナシゴレン!」と叫んだ。問題が「ナシゴレン」で解決されたので客席からは笑いが起きた。(ナシゴレンはインドネシアおよびマレーシアあたりの焼き飯。)

アジアミーツアジアは、1998年に東京で始まった。毎年10月、東京で公演を行っている。過去2年は、アジアを巡演している。「Nowhere」のツアーは、東京、バンガロール、ジョグジャカルタの3都市をまわっている。